

# おわりに

本研究では、「中途失明者の点字指導に関する学習会」を中心に位置づけて取り組んできた。第4章の「学習会の趣旨」で述べてきたように、指導の実践的な場で活躍している人たちの声を研究に反映したい、参加者同士の情報交換や連携のきっかけ作りがしたいという思いがあったからである。

「学習会の記録」、特に各班のナイトセミナーの記録には、さまざまな実態やアイディア、課題について記載されており貴重な資料である。私たちは、これらの意見を参考にしながら、本研究の目的に迫ってきた。

本研究の目的の具体的な項目としてあげた3点（「第1章 研究の概要」参照）については、本報告書の第2章から第4章の各章でまとめ、併せて課題についても触れた。そして、別冊となる指導者用「中途失明者の点字触読指導マニュアル及び教材（CD・フロッピー付き）」を作成した。ここでは、単に解説だけではなく、より分かりやすくするために、指導場面を収録したビデオと、具体的な教材を載せた。第3章で述べたように、指導法や教材についてはいくつもあり、それぞれ特徴がある。別冊として作成したマニュアルや教材についても、これらのうちの一つである。個々の中途失明者の実態やニーズ、到達目標によって、これらを選び、また組み合わせたり、さらに工夫しながら活用していただけたらと考える。

これら本研究の成果は、いわば、学習会参加者の話し合いと実践による賜物である。毎回学習会終了後にはアンケートを行い意見収集しているが、このような実践的な学習会の継続を望む声を多く聞く。この学習会を一つの機会として、関係機関との連携がさらに深まっていくことを願う。

学習会参加者をはじめ、ご協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成16年3月

独立行政法人国立特殊教育総合研究所

研究代表者 澤田真弓

科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書

---

中途失明者の個に応じた最適点字サイズ評価と  
点字触読指導プログラム及び教材の開発

（課題番号 13610348）

平成13年度～15年度

研究代表者 澤田真弓  
（独立行政法人国立特殊教育総合研究所）

発行 平成16年3月

---